

令和7年は10年に一度、香椎宮 勅祭の年！！

全国で16社、九州では2社しかない勅祭社の香椎宮

・勅祭とは・・・

天皇の使者（勅使＝奉幣使）が派遣されて行われる神社の祭祀

のことをいいます。※奉幣とは幣帛（お供えもの）を供える行為。

古代・中世において天皇の即位報告や国家安全祈願のために
発遣された香椎宮奉幣使は、14世紀に途絶えますが、約400年ぶりの
延享元年（1744）甲子の年に再興されました。

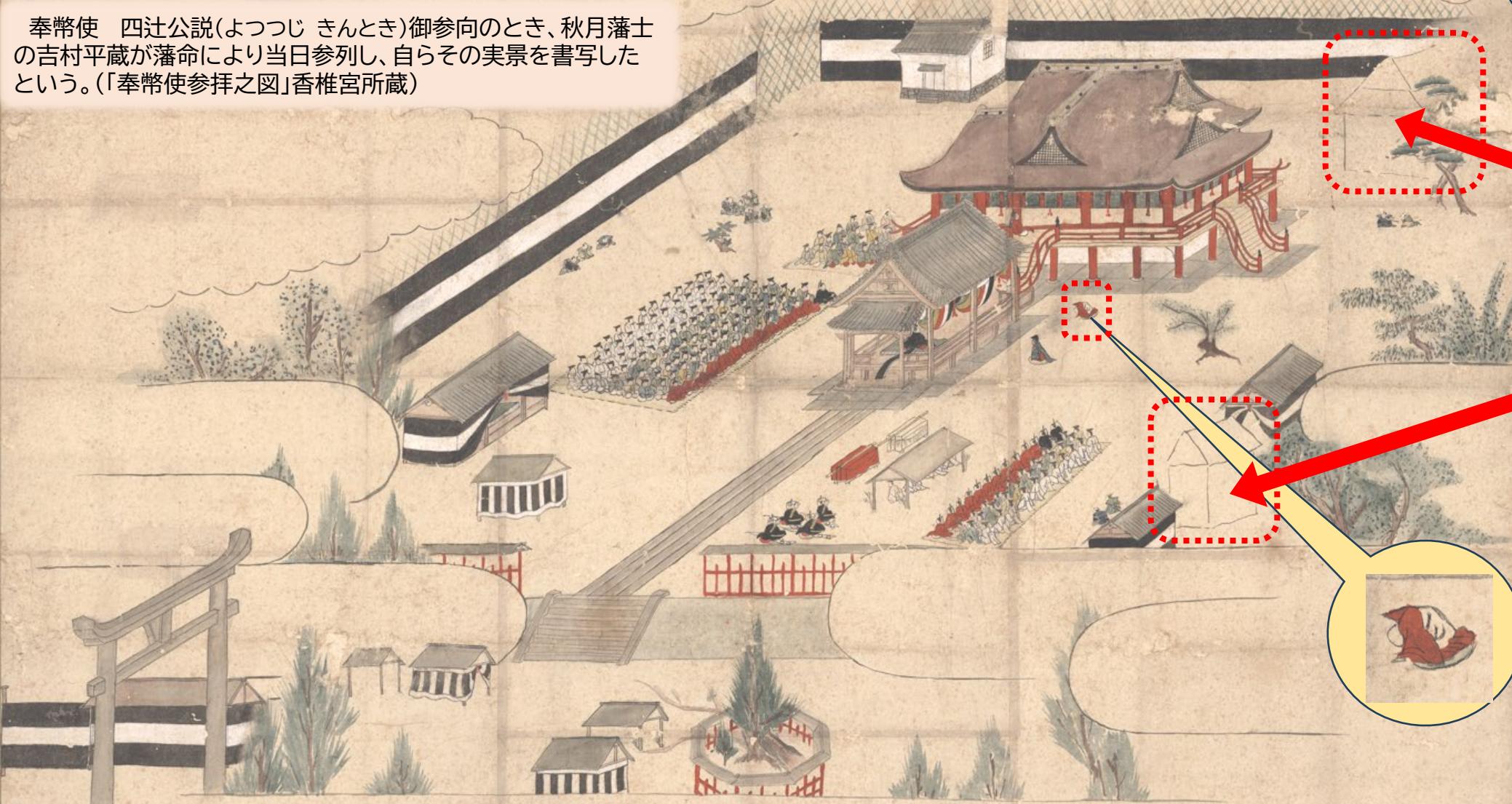
その後、江戸時代では、文化元年（1804）、元治元年（1864）と、
60年ごとに斎行されました。

大正14年（1925）以降、10年に一度に改められました。

ナゾ
シート

絵図にみる文化元年(1804)の香椎宮奉幣使参向 絵図に隠されたナゾを解き明かそう！！

奉幣使 四辻公説(よつづじ きんとき)御参向のとき、秋月藩士の吉村平蔵が藩命により当日参列し、自らその実景を書写したという。(「奉幣使参拝之図」香椎宮所蔵)



左の絵図は1804年に奉幣使が参詣されたときの香椎宮の様子を描いたものだよ。



【ナゾ1】

色がぬられていない建物があるけど、どうしてかな？



【ナゾ2】

人がたくさん集まっているね。何人いるのかな？
どういう人が集まっているかも気になるね。

- (ア)約50人 (イ)約100人
(ウ)約200人

【ナゾ3】

よくみると、一人だけ坊主頭の人がいるよ。どうしてかな？

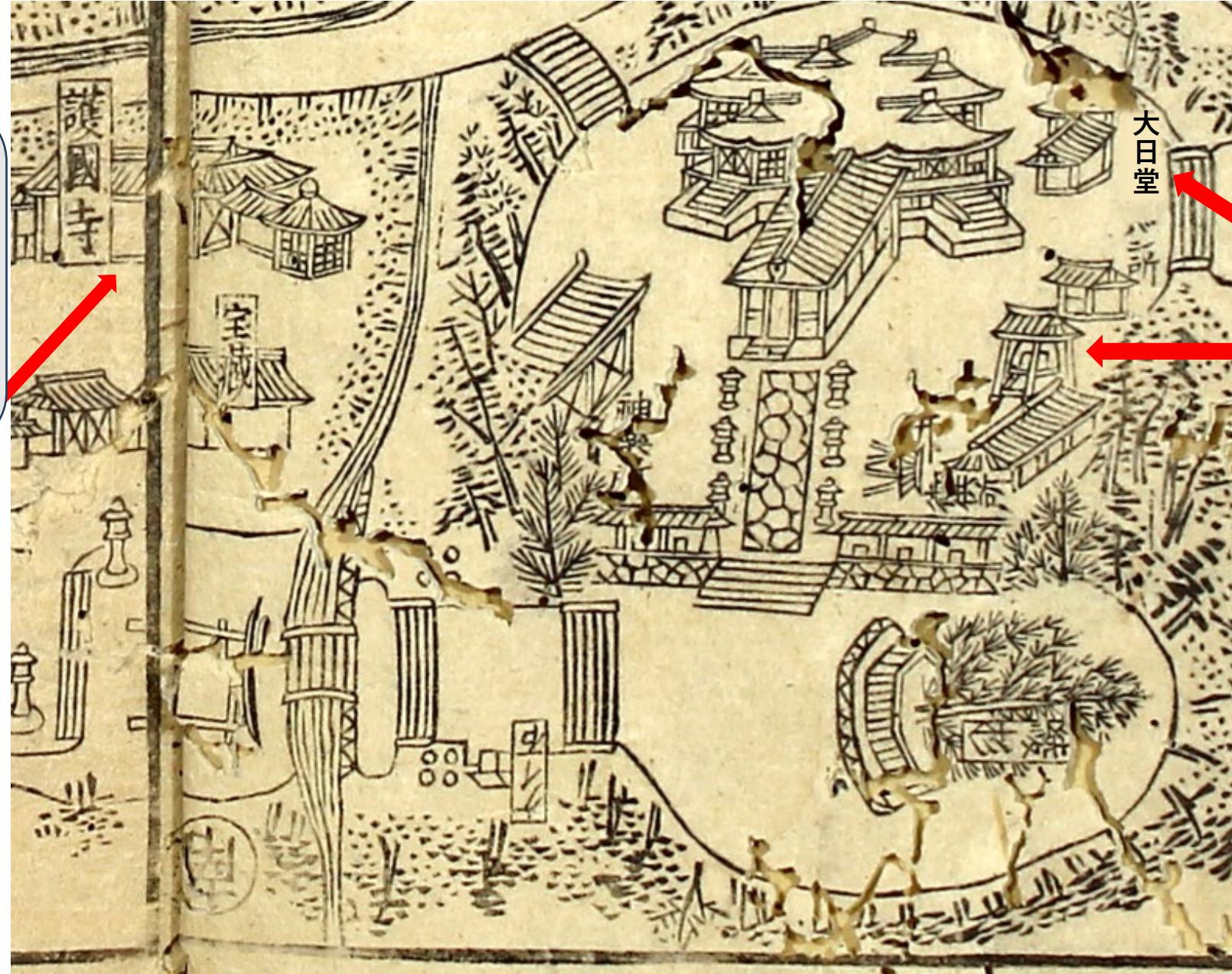
寛政11年(1799)頃の香椎宮境内図

【ナゾ1のヒント①】

香椎宮の敷地のなかに
「護国寺」というお寺があるんだ～！！

神社(神道)とお寺(仏教)、
今は別々だけど…

江戸時代は神仏習合(しん
ぶつしううごう)といって、
神道と仏教が合わさった
信仰形態があったんだ。



【ナゾ1のヒント②】

今の神社にはなかなか
見られない大日堂(大日如来
を祀る)と、
鐘をつるす建物の鐘楼
(しょうろう)が描かれて
いるね！



【ナゾ1のヒント③】

大日堂や鐘楼が描かれて
いる場所とさっきの絵図を
見比べてみると、色がぬられ
ていない建物が大日堂と
鐘楼ということがわかったか
な。

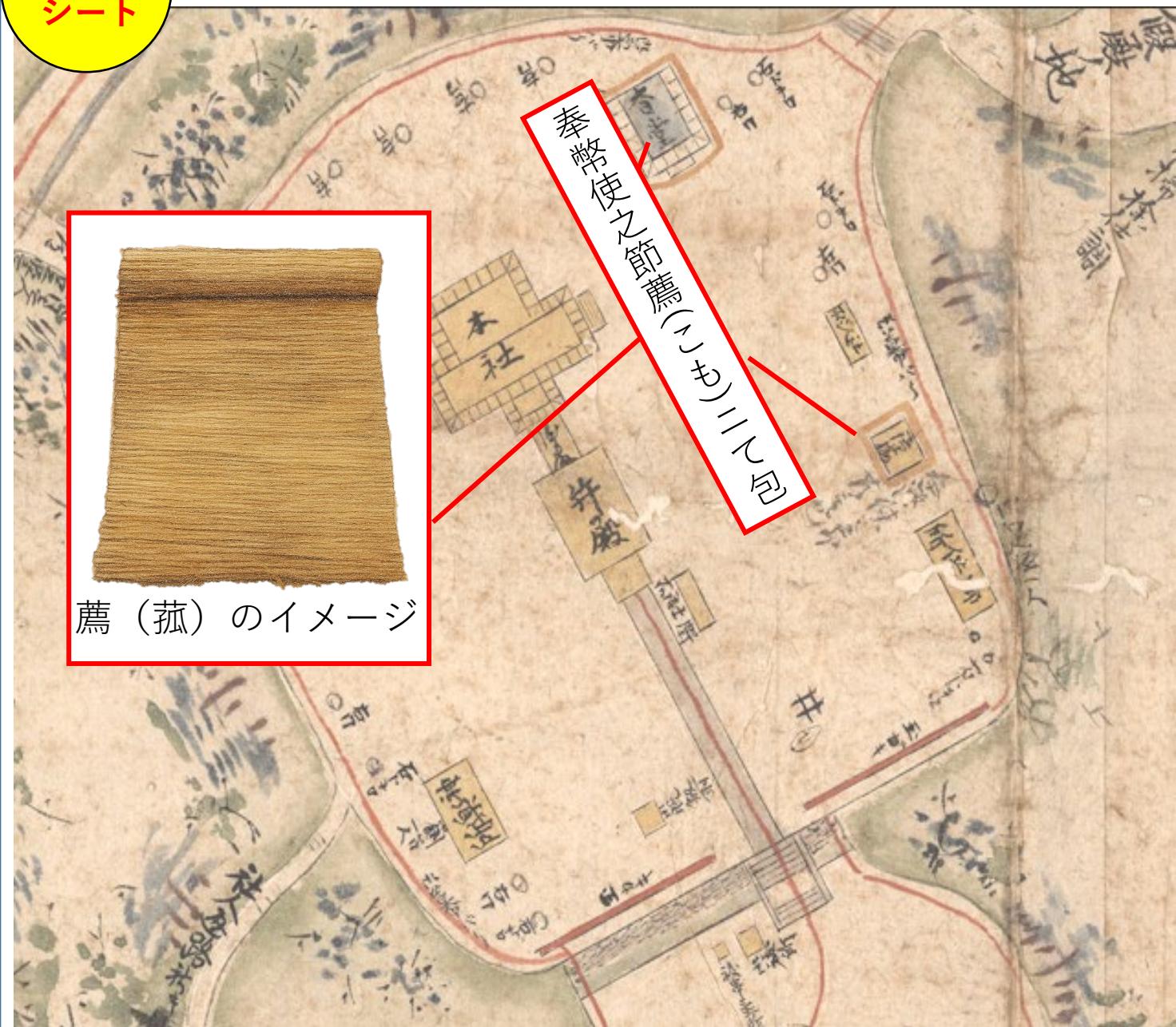




文化元年(1804) 香椎宮境内周辺拡大図



奉幣使又之節薦(いも)にて包



香椎宮本殿

綾杉

【ナゾ1のヒント④】
奉幣使のときに、蘆(こも)で
大日堂と鐘楼が包まれてい
ることがわかるね！



文化元年(1804)の奉幣使参向の参集状況

本絵図にみえる参集者 総勢●●●人

(参考) 文献史料が示す参集等

- ・奉幣使の供奉(ぐぶ)は129人
- ・香椎宮に参集した筑前国中の社家は300余人や401人ともいわれる(位階のある者34人、無位367人)
- ・その他、黒田家家臣

下に記載した人数を合計してみよう!

御国中社家
【1列】13 【6列】15
【2列】14 【7列】13
【3列】14 【8列】13
【4列】15
【5列】15 計: 112人

黒田家家臣5人

黒田家家臣3人

奉幣使随行
香椎宮社家
計: 17人

香椎宮
大宮司
1人

護国寺座主1人

黒田家家臣2人

奉幣使1人

奉幣使随行
輪王寺宮御使1人

衛士カ
4人

衛士詰所カ
4人

御国中社家
【1列】13
【2列】11
【3列】11
【4列】11
計: 46人

黒田家家臣2人

鐘楼
菰で隠す

香椎宮本殿【国指定重要文化財】

享和元年(1801) 福岡藩主
10代黒田長順(ながゆきなりきよ)の
再建による

大日堂
菰で隠す



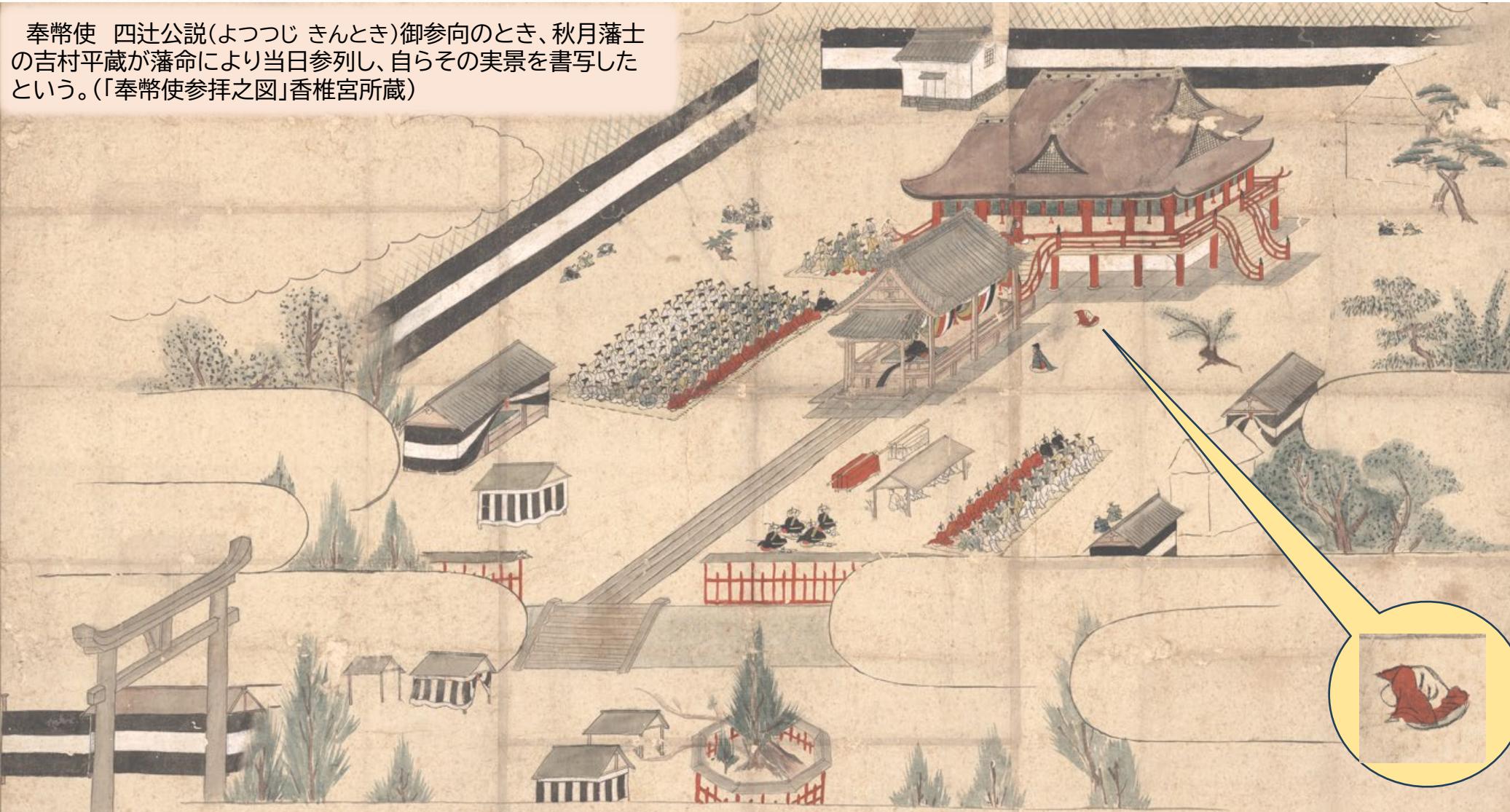
菰で隠されたイメージ図

出典: 香椎宮資料「香椎宮奉幣使参拝之図」
※参列者の属性識別は山崎文書
(青柳種信関係資料) 1401(福岡市博物館所蔵)、香椎宮資料571
(香椎宮所蔵)による。

絵図にみる文化元年(1804)の香椎宮奉幣使参向

絵図に隠されたナゾの答え

奉幣使 四辻公説(よつづじ きんとき)御参向のとき、秋月藩士の吉村平蔵が藩命により当日参列し、自らその実景を書写したという。(「奉幣使参拝之図」香椎宮所蔵)



【ナゾ1の答え】

菰(こも)で覆われて隠されたから。
仏教に関わるものや不浄なものは、奉幣使から見えないよう隠されたんだ。

【ナゾ2の答え】

絵図では全部で199人
数えられるので、正解はウ。

《参考》文献史料が示す参集者
絵図には全員は描ききれなかったようだね。
・奉幣使の供奉(ぐぶ)は129人
・香椎宮に参集した筑前国中の
社家は300人余や401人とも
いわれているよ。
・その他、黒田家家臣など

【ナゾ3の答え】

一人だけいる坊主の人は、
香椎宮別当寺(神社を管理するお寺)の護国寺の座主
(最上位の住職)だよ。

護国寺座主は祭事に関わること
ができず、着座のみ許可されたそう。

福岡藩御用商人による当時のうわさ話の記録

○人払いに付不相分事に候へ共、其節大日堂・觀音堂・護摩堂之類薦包相成居申候に付、其内に隨し居申候て拝見之人之咄也。扱又右御社参之前夜俄に成何事に候哉、護国寺は不及申一派之僧沙汰悪敷、松源院・護摩堂之類薦包に相成、護国寺之壇之上くはだんずにて包、少しも仏家かゝり候処不見様に相成何事に候哉、護国寺は不及申一派之僧沙汰悪敷、松源院・護摩堂之類薦包に相成、判也。又武内は更也。神主の方勢ひ能、諸人參詣仕、札等請候も皆武内より受る。且武内屋敷は先達より御上より御普請被仰付、新に座敷建、きれいなる事也。

文化元年（一八〇四）四月十一日

人払いされたので詳細はわからないが、このとき大日堂・觀音堂などを菰で包んで隠すのに従事した人の話を聞くと、

奉幣使御社参の前夜、にわかに香椎宮近辺にある大日堂・觀音堂・弁天堂・護摩堂の類は菰（こも）で包まれた。

少しも佛教が関係するところが見えないようになつたのは何事なのか。

護国寺（香椎宮の別当寺）は言うに及ばず、一派の僧の評判は悪く、松源院（荒戸にあった東照宮の宮司坊）など、とりわけ不評である。



福岡藩御用商人・加瀬元春肖像
(福岡市博物館所蔵)

自分たちが日常的に信仰している佛教関係の施設を菰で隠すという異様な光景に衝撃を受ける。

絵図にみえる文化元年(1804)奉幣使参向のまとめ

・参集者

絵図にみえる参集者は約200人、
ただし、**文献史料からは300人以上**確認できます。

・佛教色排除の動き

奉幣使参向の際、**佛教色を排除する動き**がみられました。

例) 大日堂や鐘楼などを菰で隠した

御用商人の加瀬元春は、菰隠しに従事した人から話を聞き、
驚いたことを書き留めています。

佛教色排除の動きは、
明治維新期の
神仏分離・廢仏毀釈
の萌芽（ほうが）と
捉える考え方もある

香椎宮の別当寺である**護国寺の座主**（最高位の住職）は、
着座のみ許可され、祭事に携わることはできませんでした。

注意！

勅祭当日10月9日について、ご参列は香椎宮から事前にご案内を差し上げた方のみとなります。

また、当日は香椎宮への出入が一部制限される予定です。これに伴い勅祭のご見学は出来ませんので予めご了承ください。

なお、香椎宮による当日の模様のライブストリーミングが予定されています。詳細については香椎宮の公式サイトをご確認ください。

主要参考文献・資料

- ・高埜利彦「近世奉幣使考」（初出、『歴史学研究』500号、1982年）
- ・香椎宮社務所編『香椎宮御由緒』（香椎宮社務所、1983年）
- ・門司成重『香椎宮奉幣使(藩制時代)についての記録 [1輯]』（1988年）
- ・門司成重『香椎宮奉幣使(藩制時代)についての記録 2輯 (復活延享元年甲子度並文化元年甲子度分等)』（1989年）
- ・廣渡正利『香椎宮史』（文献出版、1997年）
- ・田中由利子「近世における地方神社の触頭支配確立：香椎宮奉幣使発遣を契機とした福岡藩桜井神社の触頭化をめぐって」（『比較社会文化研究』31、2012）